

中学校 3 学 年社会科学学習指導案

麗澤中学校

指導者：瀧村 尚也

1. 単元名 「チョコレートは甘くない現実 ～私たちにできること～」

2. 単元の目標

- (1) 貧困が起こる状況やフェアトレードの仕組みについて、資料の読み取りを通して、理解している。
〔知識・及び技能〕
- (2) 貧困や飢餓の問題を解決するために、自分にできることを効率と公正の観点から考察し、表現している。
〔思考・判断・表現〕
- (3) 貧困や飢餓の問題を解決するために、自分にできることを身近な生活に置き換えて、主体的に係わろうとしている。
〔主体的に学習に取り組む態度〕

3. 単元について

(1) 教材観

本単元「チョコレートは甘くない現実 ～私たちにできること～」は、中学校学習指導要領公民的分野の内容D（1）に該当し、国際社会についての内容である。序章では、「SDGsから地球規模の課題について捉えよう」を扱っている。国連で2015年に採択された持続可能な開発目標（SDGs）について考えさせるとしても良い教材である。1節では、国際社会の仕組み。2節では、地球環境問題、世界の資源・エネルギー問題、貧困問題、新しい戦争、難民問題、国際社会の抱える様々な課題。3節では、「これからの地球社会と日本」を取り上げている。1節と2節の学習を踏まえて、3節では国際社会における日本の役割や個人として何ができるのか？また、友人どうしの意見交換などを通じて、どのような解決策があるのか？を考えさせたい。そのために、2節で取り上げている貧困問題については、「食べ残しと飢餓」「人口の急増と貧困」「世界の水問題」など、身近にある題材として考えることができる教材である。貧困や飢餓の問題はなぜ起きているのか？貧困や飢餓の問題解決のためにできることを友人たちと考え、話し合い、解決策を模索させる学習を展開したい。そうすることで、持続可能な開発目標（SDGs）について考え、実際に行動に移させるためのきっかけ作りとしたい。

(2) 生徒観

学年全体には2コースがあり、どちらのクラスも活発に発言をしてくれており、グループワークなども積極的に行うことができる。下位コースは時おり、解答に自信がないときは反応が薄くなることもあるが、必要に応じて助言を与えることにより、考えをまとめることができる。

(3) 指導観

教材観でも述べたように、この2節では地球規模で起きている様々な問題や課題について取り上げており、持続可能な開発目標（SDGs）の取り組みを行っている本校に打って付けの教材である。この授業においては、「貧困や飢餓はなぜ起きているのか？」「貧困や飢餓の課題を解決するためどのような取

り組みが行われているのか？」を生徒自信によるプレゼンテーション制作・発表を通して、世界の現状を理解させたい。その上で、グループによる意見交流の場を設け、「貧困を撲滅するために国際社会や自分たちにできることは何か？」を考えさせたい。この授業のまとめでは、自分たちにできることを各グループで発表させて、その意見を共有して、これから、自分たちがどう歩んでいくのか？どうあるべきか？を考えさせたい。

(4) ESD との関連

ESD の視点（見方・考え方）

- ・ A 多様性：商品の価値を多角的に捉え、消費行動を「社会を変える投票」とであると認識する。
- ・ B 相互性：消費行動が生産者の社会的自立につながっていることを理解する。
- ・ D 公平性：同じ世代の子どもたちが学校に行きたくても行けない現状があることを理解する。
- ・ F 責任性：社会に必要とされる商品を残すためには、自分から行動することが大切である。

ESD で育てたい資質・能力

- ・ 批判的に考える力（クリティカル・シンキング）
フェアトレードが本当に必要なのか、本当に正しいのかをしっかりと考え、さまざまな立場の生産者を救うことができるのかを考えることができる。
- ・ 未来像を予測して計画を立てる力
これから先の児童労働問題や異常気象の環境問題を正確に捉え、何をすべきか計画することができる。
- ・ 多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）
商品の価値を消費者側の立場だけでなく、生産者や販売事業者の立場に立って三方よしの視点で考えることができる。
- ・ つながりを尊重する態度
生産者の立場に寄り添い、できることを考え自分ごととして捉えることができる。
- ・ 進んで参加する態度
自分がよいと思ったことは積極的に行動にうつすことができる。

ESD で育てたい価値観

- ・ 世代内の公正同じ世代の人たちの中には、働くことを強いられ、学校に行きたくても行けない人たちがたくさんいる現状がある。
- ・ 人権・文化を尊重する子どもたちは特別に守られなければならないと定められた「子どもの権利条約」があるにもかかわらず、人として誰もが持つ権利である人権が保障できていない現状がある。

関連する SDGs

- ・ 1 番 貧困をなくそう
- ・ 8 番 働きがいも経済成長も
- ・ 12 番 つくる責任 つかう責任

4. 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
○地球環境, 資源・エネルギー, 貧困などの課題の解決のために経済的, 技術的な協力などが大切であることを理解している。	○対立と合意, 効率と公正, 協調, 持続可能性などに着目して, 国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察, 構想し, 表現している。	○よりよい消費生活を送るために, さまざまな視点から商品選択について検討することができる。

5. 単元の指導計画 (全 10 時間)

次	時	学習活動	学習への支援	評価 【ESD の視点】
1	1・2	●市販されているチョコレートの 2 つの「違い」を比較する。 ・味はほとんど一緒なのに、値段以外にも、産地や原料違う。 ・高い商品の方にはフェアトレード認証ラベルが付いている。 ・自分達と変わらない年齢の子どもたちが働いている。 ●どのような基準で商品を選べばよいだろう？	○両方ともスーパーで販売している商品を使用し、身近なものから社会課題を考えさせる。 ○商品を選ぶ際に価格以外の基準（情報）は、どのようなものがあるのかを考えさせる。	ア (知識・技能) イ (思判表)
2	3・4	●「フェアトレード認証ラベル」について調べる。 →ACE やフェアトレードジャパンの HP から認証ラベルについて調べる。 ・一時的なものではなく、持続的に支援することが大切なんだ！ ・商品を通じて、課題解決に取り組む商品がたくさんあることにびっくり！ ・産者から商品者までの過程がしっかりとわかるようになっているんだね。 →実際に地元のスーパーに行って認証ラベルが付いている商品を探す。 ・ジャンルは違えど、安価で売られてしまっているものばかりだ。	○フェアトレード認証ラベルは、持続可能な生産と公正な貿易により、貧困のない持続可能な社会の実現を目指しているものだと思わせる。 ○チョコレートのほかに、コーヒー、紅茶、コットン製品、バナナやスパイス、砂糖、ジャム、はちみつ、ごま、ワイン、大豆・豆類、切り花、ボール類などがあることを理解させる。	ア (知識・技能) 【D 公平性】 ア (知識・技能)

3	5 ・ 6 ・ 7	●「フェアトレード」って本当に必要なのかを考える。 手段やプロセスの異なるそれぞれの団体に分かれ、取り組みや考え方についてお話を聞く。 ① 「一般社団法人日本フェアトレードフォーラム」の方に話を聞く。 ② 「ピープルツリー株式会社」の方に話を聞く。 ③ 「株式会社マザーハウス」の方に話を聞く。 ・アンフェアな現状があることがわかった。 ・フェアトレードの支援の形は一つではないんだ。	○日本のカカオ豆の自給率や輸入相手国について知る。 ○商品の価格のうち何%が生産者の手元にいくのかを知る。 ○児童労働の実態や課題を捉える。 ○労働により、教育を受けることができないことを知る。 ○生産者だけでなく消費者の視点も大切にする。 ○認証ラベルでは救うことができない生産者がいることを考えさせる。	ア (知識・技能) 【B 相互性】 イ (思判表)
4	8 ・ 9 ・ 10	●私たちにどのようなことができるかを考える。 ・地域のお店に協力をしてもらいオリジナルのフェアトレードの商品を製作して、販売する。 ・店に対して、フェアトレード商品や環境に配慮した商品を置いてもらうように呼びかける。 ・市役所などに掛け合って、法律(条例)などの表示やラベルの制度の充実を図る。	○どのようなことができるのかアイデアが浮かばない生徒が多い場合は、実際の実践事例をいくつか紹介するのなど、より具体的に何ができるかを考えさせ、その中で生徒が担当できる役割を明確化させる。 ○「消費行動で支援＝お金をかけて支援するということ」にならないように留意し、購入すること以外でも支援できることも明示する。 ○その方法を実現させるためには、どのような団体の協力が必要で、どんなスケジュールで行うことができれば実現可能かを考えさせる。	ア (知識・技能) イ (思判表) ウ (主体的) 【A 多様性】 【F 責任性】